

チョウセンハマグリ

(鹿島灘はまぐり)



生態的特徴等

【生態】外洋性で、鹿島灘以南の潮間帯下部から水深 10 m までの砂底に生息する。産卵期は夏季で、約 2 週間の浮遊期を経て海底に着底する。2 歳頃までは汀線付近に分布し、その後は成長に伴って水深 2~6 m 付近へ移動する。寿命は 25 歳以上とされる。満 3 歳で殻長 60 mm に達し、漁獲加入する。

【漁法と盛漁期】

茨城県では、主に大洗町、鹿島灘、はさきの 3 漁協により貝けた網で周年漁獲される。

【利用】

酒蒸しや潮汁の他、煮ハマグリ（寿司）などで食される。コハク酸やグルタミン酸、グリシンなどのうまみ成分が豊富に含まれる。旬の魚（春）、プライドフィッシュ（春）に選定されている。

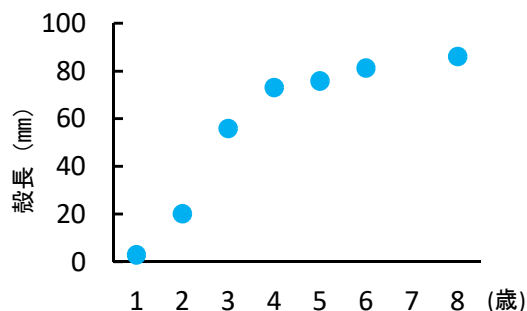


図1 チョウセンハマグリの成長

H 26・H 29・R 2 年生まれが漁獲の中心

(漁獲量) 漁獲量は H5 年から H20 年頃までは 500~1,000 トン前後で推移したが、H23~28 年までは 100 トン前後に留まっていた。H30 年以降は資源量の多い H26 年生まれが成長し、漁獲加入したことで、200 トン以上の水揚げが続いている。R6 年の漁獲量は 411 トンであった (図 2)。

(加入量) 資源は卓越年級群の発生によって維持されている。現在の資源は、H26 年および H29 年生まれと、R5 年に新たに漁場に参加した R2 年生まれを主体として構成されている。

(水準と動向) 資源水準は、本県の調査船調査結果から算出した推定重量の推移から「中位」、動向は、直近 5 年間の推定個体数の推移から「増加」とした (図 3)。

水 準



動 向

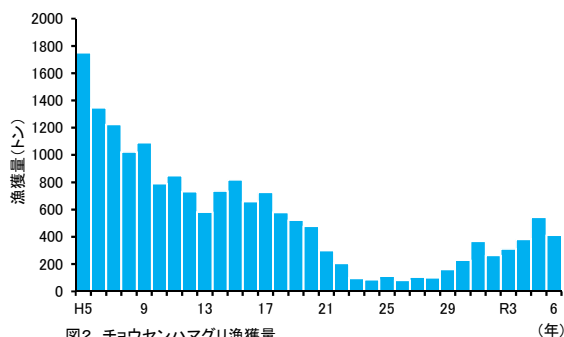


図2 チョウセンハマグリ漁獲量
(農統(〜H18)、水試聞き取り(H19〜)、属地)

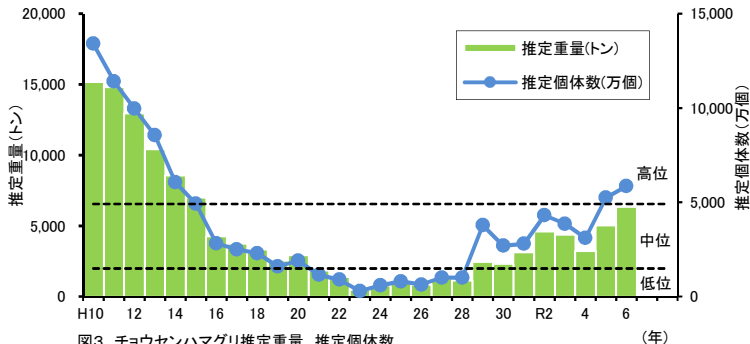


図3 チョウセンハマグリ推定重量、推定個体数
(水産試験場調査船調査結果より)

【全国の漁獲動向】

千葉県九十九里浜（九十九里地はまぐり）、島根県益田（鴨島はまぐり）等で漁獲される。九十九里浜では、H23 年以降漁獲量が増えている。